



公益社団法人 日本薬剤師会理事 松浦 正佳

「副作用が怖いので、できれば薬を飲みたくないのですが」という相談を受けます。副作用と聞くと、怖いものだと感じる人は多いと思います。副作用と一言でいっても症状はさまざまであり、大きく二つに分けられます。一つは、起こる可能性が比較的高い副作用で、軽度であれば問題ありません。例えば、風邪薬の中には飲むと眠くなるものがあります。鼻水などの症状を改善する成分に眠気を引き起こす作用があるためです。十分に予想される症状なの

副作用に気付いたらすぐに相談

体への影響



で、体への悪影響の心配はまずありません。それでも、トラックなどを運転する仕事の人は事故につながり

かねないので、眠くなりにくい風邪薬を選ぶなどの注意が必要です。もう一つは、体に悪影響

を及ぼす可能性がある副作用です。コレステロールを下げる薬の中には、ごくまれに筋肉がダメージを受ける「横紋筋融解症」が報告されています。筋肉の痛みや尿の色が濃くなるなどの自覚症状が現れます。気付いたら、すぐに処方医や調剤を受けた薬局の薬剤師にご連絡いただ

き、薬の使用中止や他の薬への変更などの指示を受けましょう。このような副作用に関する情報は、薬局でお渡しする薬の情報提供文書に記載されていますので、必ずご確認ください。この二つが、薬を使用する人にまず知ってほしい内容です。

また、副作用によつては自覚症状が現れにくく、体調変化に気付くことができない場合も。そのため、医師は診察や検査で、薬剤師は服薬指導の中で副作用の有無を確認しています。薬を飲んでいつもと異なる症状が現れた際や不安を感じた場合には、気軽に薬剤師にご相談ください。